

さいがいたげんごしえん せつち うんえいくんれん ようやく
災害多言語支援センター設置・運営訓練(要約)
だい きやまとしたぶんかきょうせいかいぎ だい かいかいぎ
〈第3期大和市多文化共生会議 第15回会議〉

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2014年7月26日(土)14:00~16:00
ばしよ やまとし やくしよぶんちようしや かいかいぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎3階会議室
しゅつせき めい
出席: 33名

きよくちよう
1 局長あいさつ、オリエンテーション

こうざい やまとし こくさい か きょうかい こん の きよくちよう あと じ む きよく くんれん がいよう
(公財)大和市国際化協会の紺野局長からのあいさつの後、事務局から訓練の概要に
せつめい
ついて説明した。

たげんごしえん た あ
2 多言語支援センター立ち上げ

やまとし やくしよこくさい だんじよきょうどうさんかくか ふなこし か ちよう こうざい やまとし こくさい か きょうかい こん の きよく
大和市役所国際・男女共同参画課の船越課長と(公財)大和市国際化協会の紺野局
ちよう たげんごしえん た あ じつえん おこな
長による多言語支援センター立ち上げの実演を行った。

わ
3 グループ分け

さん かしや えい ご こ こ ちゆうこく ご ご ご ご ご
参加者が英語、スペイン語、ベトナム語、中国語、タガログ語、ラオス語・タイ語・カンボ
ご わ ほんじつ おこな さ ぎよう て じゆんかく にん おこな
ジア語の6グループに分かれて、本日行う作業の手順確認を行った。

さ ぎようかい し
4 グループ作業開始

い か とお さ ぎよう じ っ し
以下の通り、グループでの作業を実施した。

やまとし さいがいたいさくほんぶ じようほう う と
①大和市災害対策本部からの情報受け取り

じようほう せんべつ ゆうせんじゆん い
②情報の選別(優先順位をつける)

に ほん ご た げん ご ほん やく さ ぎよう おこな じようほう は っ しん
③やさしい日本語と多言語への翻訳作業を行い、グループごとにそれぞれ情報発信

ひ なんじよけい じ ばん
(避難所掲示板、ホームページ、Facebook、FM やまと)

さ ぎよう つう ぎ せい り
④作業を通じて気づいたことの整理

かく は っ び ょう
5 各グループからの発表

さ ぎよう お い か てん もと かく ほう こく
グループ作業を終えたあと、以下の3点に基づき、各グループからまとめの報告をしても
らった。

①なぜ、その順番でその情報をえらんだか？②その情報を出す場所について、特に注
い な い な い な い
意したことは何か？③むずかしかったことは何か？

■スペイン語グループ

Facebook に災害多言語支援センターのページを作成し、そのページに情報を発信した。

- まず、ざっと 17枚を流し読みしてから、必要な情報をえらんだ。1枚目の地震情報は基本的な情報のみを翻訳し、詳細までは翻訳しなかった。
- 電車、バスなどの交通情報については、外出している人には特に必要な情報だろうと
おもって選んだ。
- やさしい日本語にすることがむずかしかった。翻訳することはできるのだが、「がけ崩れ」「道路陥没」などについて、どういう表現で日本語の不得手な人に伝えるといいのか、苦労した。

■中国語グループ

国際化協会のホームページのお知らせのページを作成し、そのページのお知らせをアップした。

- 何が起きたのか、という情報をまず一番に提供した。次に、大和市に住んでいる外国人に必要な情報という理由で、口頭で外国語の情報提供ができる電話番号をお知らせした。
- 場所については、ホームページなのでどこからでも見られるということがあるが、果たしてホームページがどれだけ活用されるのか、訓練をしながらすぐ疑問に感じた。この多言語支援センターで翻訳しなくても、別の場所で翻訳してもらって、ホームページにアップすればいいのではないだろうか。災害時には、必ずしもこのセンターでホームページの情報を作成する必要はないかもしれない。
- むずかしかったのは、パソコンの取り扱いに時間がかかったこと。入力するにも、ホームページにアップするにも時間がかかった。結局、時間内にアップすることができたのは2枚のお知らせのみ。地震が起きたということと、多言語での情報提供をしていることの2つ。

■ラオス語、タイ語、カンボジア語グループ

災害多言語支援センターに設置した掲示板に情報を貼り出すという想定で作業を行った。

- 地震が発生して3時間後で、最低限(伝えるべき情報)で、また、かんたんな情報という点を考えてえらんだ。第一に基本的な地震の情報、第二に病院情報。次に病院

にたどり着くための手段として、交通情報をえらんだ。避難所に関しては、市内の小中学校や高校にいくつできた、という形でかたんにまとめた。続いて電気、ガスの状況など。それから給水の情報。

- この多言語支援センターにたどり着いた人しか情報を得られない。その人たちが地域に持って帰ることができるように、かんたんな情報にできるように注意した。
- むずかしかったことは、日本語を簡潔にすることと、急いで翻訳しなければいけないレッスンがあったこと。このグループはひとつの言語に一人しか翻訳の担当がいなかったので個人差もあり、たいへんだった。

■ベトナム語グループ

市内の南部に位置する渋谷小学校の避難所掲示板に情報を届けるという想定で作業を行った。

- 第一に、渋谷小を含む、周辺の避難所の状況確認を行った。なぜかという、家族の安否の方が水や食料よりも大事だと思ったため。交通に関しては、車を使った移動はダメだということを絵で表した。そのほか、火事などの情報に関しても、言葉よりも絵で伝えようと思った。やはり、やさしい日本語に直すことがむずかしかった。
- 優先順位を考えるとときに意見が食い違い、そこで時間がかかってしまって、あまり情報を書き出すところまでいかなかった。水の情報に関して、避難所近くの給水場所はなかったため、情報の精査が必要だと思った。また、情報は更新されていくので、どんどん情報を出していくスピード感が大事だと思った。

■タガログ語グループ

市内の北部に位置する中央林間小学校の避難所掲示板に情報を届けるという想定で作業を行った。

- まず、生命・財産に関する情報として、火事、交通、避難所一覧に関する情報を優先した。国民健康保険や市役所の手続きは無視した。
- 場所に関して、中央林間小ということで、市内の南部に関する情報は無視して、南林間や林間など中央林間の近くの情報をえらぶように注意した。
- 今回は、災害対策本部からの情報をやさしい日本語になおさず、ダイレクトにタガログ語に翻訳することができたが、一般的に使わない用語に関しては、説明が必要だった。やさしい日本語に直した情報からタガログ語に翻訳することは簡単だったようだ。ただし、翻訳し終えた情報の管理がむずかしかった。その意味では、6人全員が翻訳に取

りかかるよりも、一人はコントロールする人間がいた方がいいのでは、という意見が出た。

■英語グループ

FM やままとに翻訳情報を提供して、ラジオを通じて情報を届けるという想定で作業をおこなった。

- いかに簡潔かつ正確に情報を届けるかという想定のもとで作業した。情報を地震の基本情報、交通、火災、建物損壊、避難所の5つに分けた。
- まずは、生き延びるために必要な情報をえらんだ。はじめに地震の発生時間と規模、それから交通情報、電車がとまっている、道路に危険なところがあるなどをまとめた。また、ライフラインの状況、復旧の見通しについてもやさしい日本語にした。翻訳に取らるかろうというところで時間になってしまった。
- むずかしかったのは、必要な情報の取捨選択とそれをいかにかんたんな日本語に置き換えるかという点。

6 振り返り

■危機管理課からの振り返り

- 必要な情報をえらびとることがむずかしかった、という印象を受けた。今日はそれぞれ個人的に被害の状況を想像しながらの訓練だったため、むずかしかったと思う。実際の被害状況を目の当たりにするなどしたら、もう少し判断しやすくなるだろう。ただ、こうしてみんなで考える時間をとれたことはよかった。
- 今日は初めてということもあって、情報が出てくるまでに少し時間がかかってしまったかもしれない。災害情報は、少し時間がたつといらなくなってしまうので、スピードが命。「これわからないけど、どう伝えたらいいだろう」と迷うより、「今はこの部分についてはわからない」と伝えた方がよい。市民は情報がまったくないと悪いことも想像して、どんどん不安になってしまう。完璧な情報にしてから発信するのではなく、今わかること、わからないことをはっきり伝えた方がいい。
- 情報の出し方に関して、絵を使ったり、母国を意識した情報を考えたり、「津波の心配はありません」という情報を出したり、一般の大和市民では気づかないところにも配慮があつてよかった。
- 実際の多言語支援センターであれば、市役所や国際化協会の職員もいるはずなので、近くにいる人とコミュニケーションを図って、一人で悩みすぎないようにしてもらえ

ばいいかと思う。

■ファシリテーター清水氏からの振り返り

○多文化共生委員の方々は昨年から災害時の外国人支援についてずっと考えてきていて、この訓練が実現できればいいのでは、ということで話し合ってきた。委員にとっては、ようやく一つのことが出来上がった。

○今回初めて参加された方も含めて、ネットワークをつくろうということを重視してきた。自分自身、今回の訓練でひさしぶりに再会した方もいて、再びつながることができた。今回、グループを組んで初めて会った人も多いと思うが、こうした機会を通じて、またネットワークがつながっていくものだと思う。こうしたネットワークが、もし何かあった時に助けたり、あそこに誰かがいるというつながりが生まれたりして機能していく。

○先ほど、船越課長と一緒に、来年もやれるといいね、また人数が増えてやれるといいね、という話をした。そうして続けていくことで、もし何かあったときに、命を落としたり、苦しい思いをしたりする人が少なくなって、わたしたちが災害を乗り越えていくことができる。